

地域で連携しています ～町田市子育て支援ネットワーク連絡会～

2001年に開設された「町田市子育て支援ネットワーク連絡会」は、虐待を受けている子ども、親の育児不安や疾病などにより養育が困難な家庭の子どもを早期発見し、適切な保護を図ることを目的としています。



なんでしつけにならないの?
1面のイラストは、直接的な暴力でなくてもどれも児童虐待にあたります。虐待になるかは、親側の意図とは無関係で、「子どもにとって害があるかどうか」で判断します。「子どもを愛しているから、そうしているのに」は、理由になりません。また、意外かもしれませんが、子どもの前で夫婦ゲンカすることも、心理的虐待の一つです。

あなたの電話を待っています 町田市子ども家庭支援センター ☎724・4419

「これって相談するほどのことではないかも…」と迷う方も多いかもしれません。そんな時は、迷わず電話を下さい。実際に電話を受けている同センターの職員にお話を聞きました。

どんな時に電話していいの?
子どもが言うことを聞かない、お母さんが子どもに強くあたっているけど大丈夫かな、発達障がいかもしれない、泣き声が心配な家庭がある等、いろいろな相談が入ってきます。どこに相談していいかわからない時は、まずはお気軽に何でも話して下さい。

悩んでいる時はどうしたらいいの?
周りの人に助けてもらいましょう。自分を大切に、力を抜いていいんです。親に相談しても、「そういうことは昔からあるわよ。もっと頑張って」と言われ、自分を責めてしまう人もいます。でも、親失格だとは思わないで。あなたと一緒に解決の道を探します。



子ども専用の電話もあります

家庭で暮らす経験が、子どもの人生を変えることもあります 東京都福祉保健局ホームページ 養育家庭 検索

▶▶ 11月は里親月間 ～養育家庭制度って?
養子縁組を目的とせず、さまざまな理由で親と一緒に暮らすことのできない18歳までの子どもを、家庭で一定期間預かり、育てる制度です。

▶▶ 市内在住の里親(里母)さんにお話を聞きました 里親になったきっかけは?
高校生の頃、児童養護施設から通う友人がいたことから関心を持ち、短大卒業後は養護施設に勤めました。30代の時に養護施設の方に勧められ、里親登録をしました。最初の里子(5歳男子)を迎えた時は、年の近い実子(小学3年生と1年生の女子)がいて大変でした。30年経ち、現在も小学生から高校生まで複数の里子を受け入れています。



▶▶ 養育家庭(里親)体験発表会 聞いて!いろんな家族のカタチ ～家族になろうよ
養育家庭(愛称・ほっとファミリー)の体験発表会を東京都と共催で行います。養育家庭を支援している(特)キアセット代表理事・渡邊守氏による講演もあります。
※保育希望者以外は直接会場へおいで下さい。
☐11月19日(日)午後2時～4時
場町田市民フォーラムホール
定188人(先着順)
※保育希望者(小学生以下、申し込み順)は電話で子ども家庭支援センター(☎724・4419)へ。

これまで預かった里子について教えて下さい。
5年生の時に預かった女の子は、最初は「施設からも捨てられた」と、思春期特有の気難しさからぶつかることもありました。でも、一緒に外出したついでにスイーツのお店に寄ったり、家族の時間を過ごす中で少しずつ心を開いてくれました。高校生になって、「手に職をつけたい」「どの子にも生まれてきてよかったねと伝えたい」と、看護師になる夢を持つようになりました。
また、それまでスポーツをしてなかった子が、突然部活に打ち込んだり、家庭で伸び伸びと過ごす中で一人ひとりがやりたいことを見つけて成長していています。

里親に関心のある方へのメッセージを聞かせて下さい。
やっていることは、どこにでもいるお父さん、お母さんと変わりはありません。子どもが好きで苦労と思わず、楽しめる人なら問題ありません。うまくいかない時期だけを考えてつらいかもしれませんが、その子が大人になってその時期を振り返った時に生きる糧にしてくれると信じて、日々奮闘しています。